

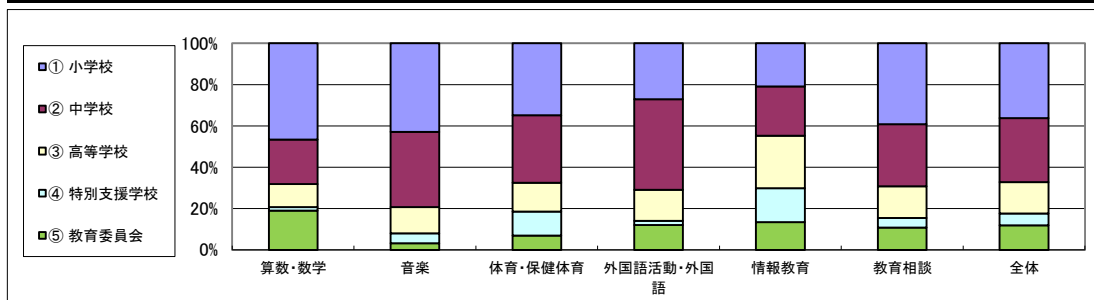
# 平成27年度 茨城県教育研修センター研究発表会 アンケート集計結果

## I 各部会，参加人数，回収数及び割合

発表部会	参加者数(人)	回収数(枚)	割合(%)
算数・数学	116	109	94.0
音楽	63	59	93.7
体育・保健体育	43	41	95.3
外国語活動・外国語	100	94	94.0
情報教育	67	61	91.0
教育相談	130	119	91.5
合計	519	483	93.3

## II 所属校種

	算数・数学	音楽	体育・保健体育	外国語活動・外国語	情報教育	教育相談	全体	割合(%)
① 小学校	54	27	15	27	14	51	188	36.2
② 中学校	25	23	14	44	16	39	161	31.0
③ 高等学校	13	8	6	15	17	20	79	15.2
④ 特別支援学校	2	3	5	2	11	6	29	5.6
⑤ 教育委員会	22	2	3	12	9	14	62	12.0
合計	116	63	43	100	67	130	519	100.0



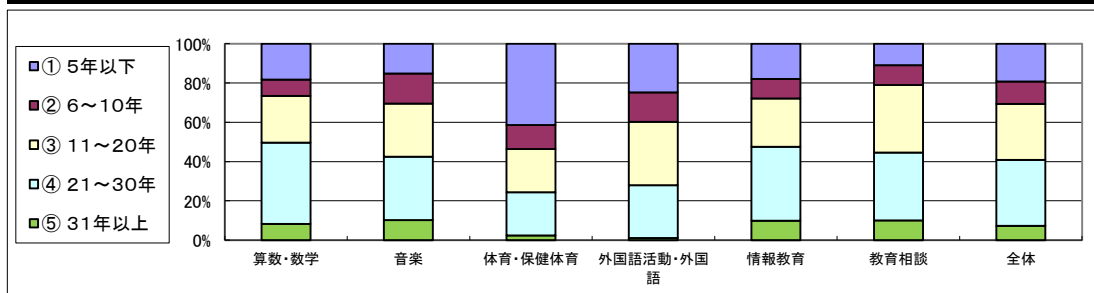
・各部会とも、小学校・中学校の参加者が多く、全体の67.4%を占めている。  
 ・高等学校参加者の占める割合が、昨年の9.8%から15.2%に増加している。

## III アンケート質問項目及び結果

1 次の(1)～(4)についてお答えください。

### (1) 教職経験年数

	算数・数学	音楽	体育・保健体育	外国語活動・外国語	情報教育	教育相談	全体	割合(%)
① 5年以下	20	9	17	23	11	13	93	19.3
② 6～10年	9	9	5	14	6	12	55	11.4
③ 11～20年	26	16	9	30	15	41	137	28.4
④ 21～30年	45	19	9	25	23	41	162	33.6
⑤ 31年以上	9	6	1	1	6	12	35	7.3
合計	109	59	41	93	61	119	482	100.0

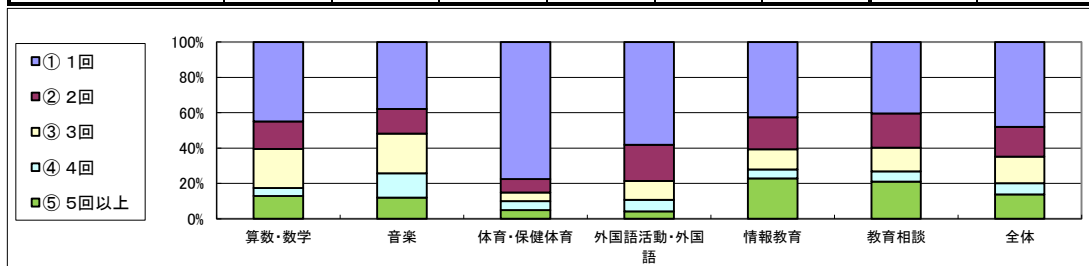


・経験年数20年以下の参加者が，昨年の52.8%から59.1%に増加している。

(2) 研究発表会の参加回数(今回も含めて)

(人)

	算数・数学	音楽	体育・保健体育	外国語活動・外国語	情報教育	教育相談	全体	割合(%)
① 1回	49	22	31	54	26	48	230	47.9
② 2回	17	8	3	19	11	23	81	16.9
③ 3回	24	13	2	10	7	16	72	15.0
④ 4回	5	8	2	6	3	7	31	6.5
⑤ 5回以上	14	7	2	4	14	25	66	13.8
合計	109	58	40	93	61	119	480	100.0



・今回初めての参加者が、全体の47.9%(昨年45.0%)を占めている。

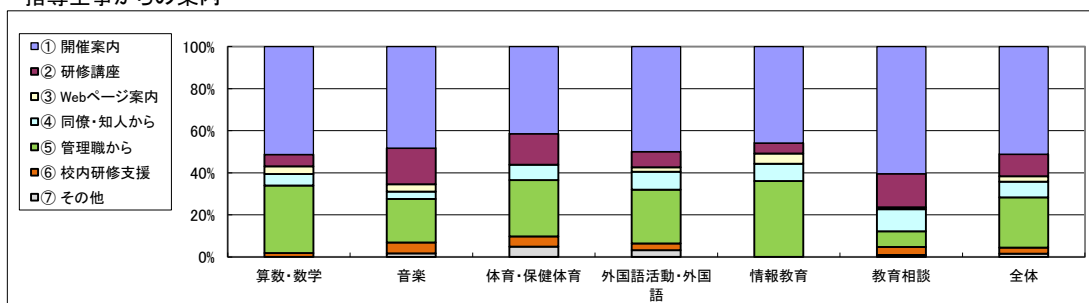
(3) この発表会をどのように知りましたか。

(人)

	算数・数学	音楽	体育・保健体育	外国語活動・外国語	情報教育	教育相談	全体	割合(%)
① 開催案内	56	28	17	47	28	64	240	51.2
② 研修講座	6	10	6	7	3	17	49	10.4
③ Webページ案内	4	2	0	2	3	1	12	2.6
④ 同僚・知人から	6	2	3	8	5	11	35	7.5
⑤ 管理職から	35	12	11	24	22	8	112	23.9
⑥ 校内研修支援	2	3	2	3	0	4	14	3.0
⑦ その他	0	1	2	3	0	1	7	1.5
合計	109	58	41	94	61	106	469	98.5

その他

- ・校内での回覧
- ・指導主事からの案内



・開催案内と研修講座での案内で知った参加者が、全体の61.6%(昨年56.5%)と半数以上を占めている。

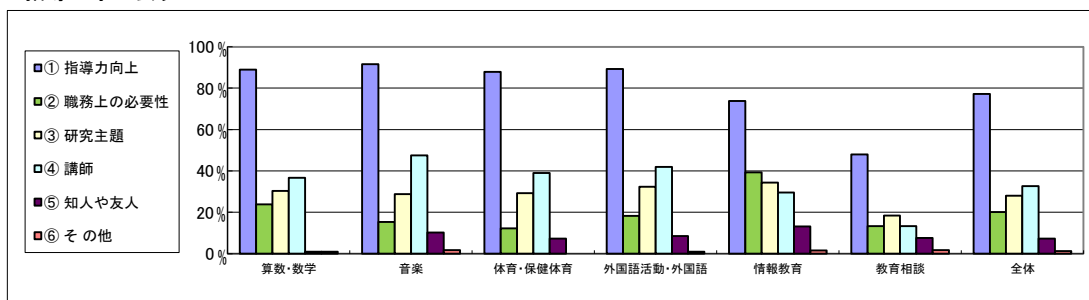
(4) この発表会に参加した主な目的は何ですか。(複数回答可)

(%)

	算数・数学	音楽	体育・保健体育	外国語活動・外国語	情報教育	教育相談	全体
① 指導力向上	89.0	91.5	87.8	89.2	73.8	47.9	77.2
② 職務上の必要性	23.9	15.3	12.2	18.3	39.3	13.4	20.1
③ 研究主題	30.3	28.8	29.3	32.3	34.4	18.5	28.0
④ 講師	36.7	47.5	39.0	41.9	29.5	13.4	32.6
⑤ 知人や友人	0.9	10.2	7.3	8.6	13.1	7.6	7.3
⑥ その他	0.9	1.7	0.0	1.0	1.6	1.7	1.2
回答者数	109	59	41	93	61	96	

その他

- ・職場の仲間により意味でいろいろ知ってもらうため
- ・指導主事に会うため



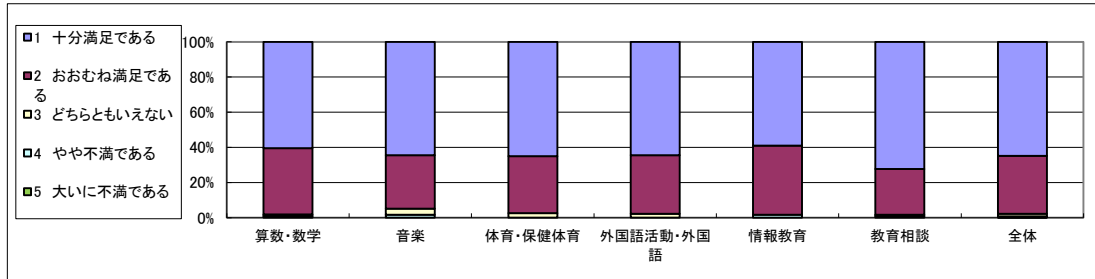
※複数回答のため、各部会とも回答者数に対する割合(%)で示した。全体の数値は、全回答者数(483人)に対する各項目ごとの総数が占める割合である。

・発表会に参加した目的に指導力向上と答えた参加者は77.2%である。次いで講師と答えた参加者は32.6%である。

2 次の(1)～(4)について、あなたの満足度を次の5段階でお答えください。  
また、御意見があれば〔 〕内にお書きください。

(1) 研究発表・実践発表について (人)

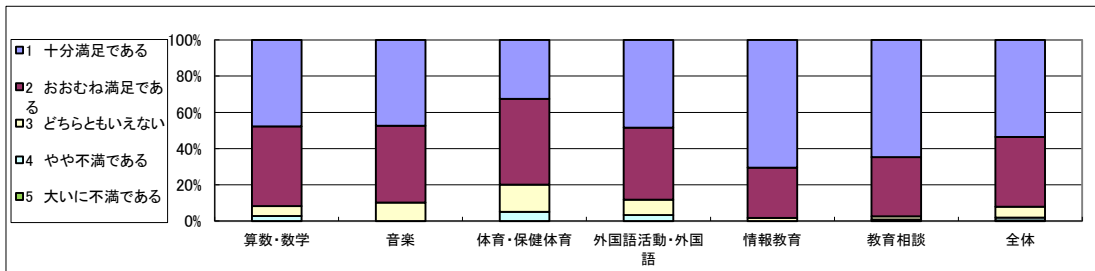
	算数・数学	音楽	体育・保健体育	外国語活動・外国語	情報教育	教育相談	全体	割合(%)
1 十分満足である	66	38	26	60	36	86	312	64.9
2 おおむね満足である	41	18	13	31	24	31	158	32.8
3 どちらともいえない	1	2	1	2	0	1	7	1.5
4 やや不満である	1	1	0	0	1	0	3	0.6
5 大いに不満である	0	0	0	0	0	1	1	0.2
合計	109	59	40	93	61	119	481	100.0



・「十分満足」と「おおむね満足」が、参加者全体の97.7%(昨年94.8%)である。

(2) 研究協議(演習)について (人)

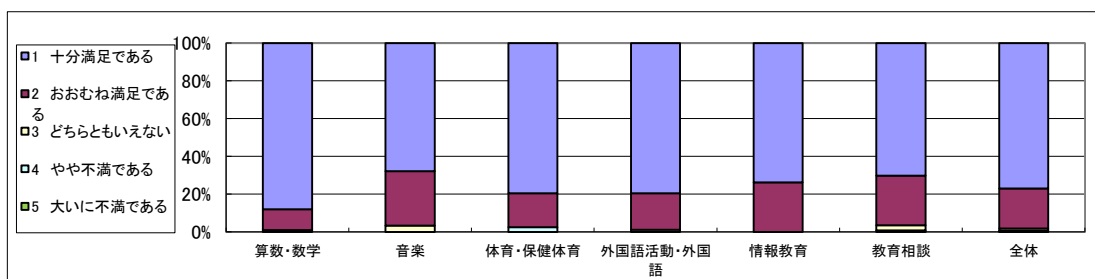
	算数・数学	音楽	体育・保健体育	外国語活動・外国語	情報教育	教育相談	全体	割合(%)
1 十分満足である	52	28	13	45	43	75	256	53.7
2 おおむね満足である	48	25	19	37	17	38	184	38.6
3 どちらともいえない	6	6	6	8	1	2	29	6.1
4 やや不満である	3	0	2	3	0	0	8	1.7
5 大いに不満である	0	0	0	0	0	1	1	0.2
合計	109	59	40	93	61	116	477	100.0



・「十分満足」と「おおむね満足」が、参加者全体の92.3%(昨年89.4%)である。

(3) 講師の講義・指導講評について (人)

	算数・数学	音楽	体育・保健体育	外国語活動・外国語	情報教育	教育相談	全体	割合(%)
1 十分満足である	96	40	31	74	45	80	366	77.1
2 おおむね満足である	12	17	7	18	16	30	100	21.1
3 どちらともいえない	0	2	0	1	0	3	6	1.3
4 やや不満である	1	0	1	0	0	0	2	0.4
5 大いに不満である	0	0	0	0	0	1	1	0.2
合計	109	59	39	93	61	114	475	100.0

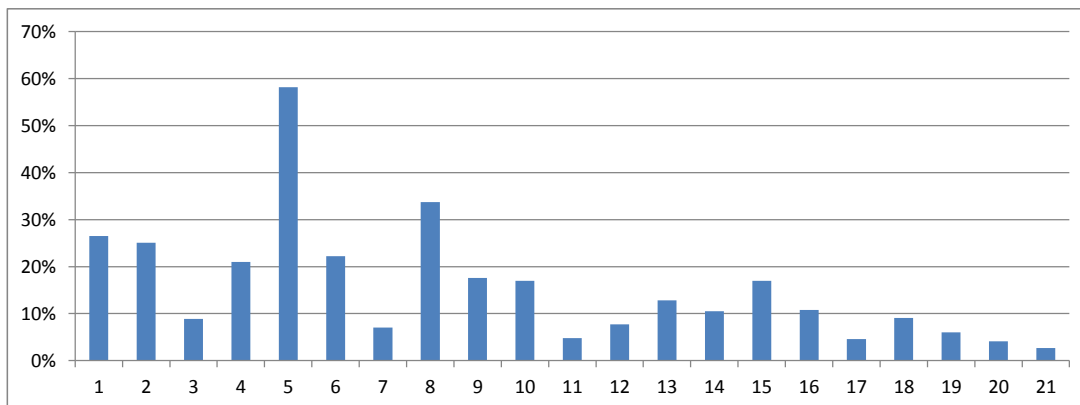


・「十分満足」と「おおむね満足」が、参加者全体の98.2%(昨年96.8%)である。

3 今後の研修センターの研究内容として取り上げてほしいものは何ですか。(複数回答可)

(人)

	全体	割合(%)
①自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える道徳科授業の在り方	128	26.5
②児童生徒の自信や可能性、能力を引き出す学級(ホームルーム)経営	121	25.1
③社会的・職業的自立に向け必要な能力を育成するキャリア教育	42	8.7
④よりよい生活や人間関係を築く特別活動	101	21.0
⑤「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善	281	58.2
⑥教科指導におけるICT活用の在り方	107	22.2
⑦ESDの視点に立った学習指導の在り方	34	7.0
⑧「アクティブ・ラーニング」などの新しい学びに対応した評価方法	163	33.7
⑨主体的・協働的な学びにおけるICT活用	85	17.6
⑩教材研究・指導の準備・評価におけるICT活用	82	17.0
⑪情報モラル・情報セキュリティ	23	4.8
⑫校務におけるICT活用	37	7.7
⑬不登校の未然防止のための魅力ある学校づくり	62	12.8
⑭不登校児童生徒への個別的・具体的な取組	51	10.5
⑮いじめに向かわない態度・能力の育成	82	17.0
⑯いじめに対する措置(対応と支援)の在り方	52	10.8
⑰児童生徒個々の身体的機能や認知理解度に応じたICT活用の在り方	22	4.6
⑱特別支援教育における自立や社会参加に向けてもてる力を伸ばすキャリア教育の在り方	44	9.1
⑲交流及び共同学習の在り方	29	6.0
⑳特別支援学校における道徳教育	20	4.1
㉑その他	13	2.7



・今後取り上げてほしいものに、「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善と答えた参加者は58.2%である。

〔その他〕

- ・生徒指導が困難な学級における授業への向かわせ方
- ・自立できる児童の育成、リーダー育成の方法
- ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習指導について
- ・統廃合された学校の考えるべきポイントや準備
- ・学級会活動(話し合い活動)
- ・実態差が大きい集団における小中高間の系統性(特別支援学校の授業づくり)
- ・保護者対応、保護者に信頼される教員の在り方
- ・英語教育が専門でない人のための英語教育
- ・小中一貫教育の在り方(義務教育学校)
- ・職員同士のコミュニケーション、職場を活性化する能力、技能、実践等
- ・高等学校で行う特別支援教育と校内体制
- ・教室のできるグループエンカウンター